

平成25年度

高等学校における

多様な学習成果の評価手法に関する調査研究
研究成果報告書

愛知県教育委員会

平成26年3月

はじめに

本研究は、平成25年5月に文部科学省が公募した「高等学校等の新たな教育改革に向けた調査研究」における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」事業に、愛知県教育委員会が申し込み採択されたことを受けて、本年度途中より開始をした事業です。

本事業は、「中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校部会」の審議内容を踏まえて実施されるものであり、これからの国の教育施策にも関わる重要なものです。

研究内容としては、高校生が身に付けるべき幅広い能力の育成に向けた学習活動について、各段階ごとに達成目標を明確化したり、当該目標に照らした評価指標を設定したりすることで、評価の信頼性・妥当性を高めることにあります。具体的に言えば、ルーブリックと呼ばれる評価基準表を活用したパフォーマンス評価やポートフォリオ評価を、各学校でどのように取り入れていくべきかの道筋を定める研究と言えます。

また、本研究においては、産業界、研究機関等が求める専門的職業人としての基盤を確実に身に付けさせるために、育成すべき資質や能力を適正に評価する手法を研究することも含まれています。

研究を推進する上では、専門家からの助言が多く必要となる関係から、教育学、教科教育学、キャリア教育等を専門とする先生方からなる評価手法検討会議を設定し、研究上の課題についてさまざまな協議を行いました。

今年度は、愛知県立惟信高等学校と愛知県立一宮南高等学校の二つの学校に研究協力校を委嘱し、外国語(英語)科と理科の研究を進めましたが、研究発表会までに、実践を行うのに十分な日程を確保できませんでした。短い期間で熱心に成果を上げていただいた先生方に、深く御礼を申し上げます。

この研究実践報告書は、本研究の概要について記述した後、評価手法検討会議の座長を務める名古屋大学教育発達科学研究科の柴田好章准教授に、本研究を進める上での理論的なバックボーンについて詳述していただきました。

また、二つの学校での取組については、「実践編」で具体的に紹介をさせていただいております。この研究実践報告書が、各学校における評価の改善に少しでも役立つならば幸いです。

愛知県総合教育センター
研究部長 小塩 卓哉